

3/27 マルコの福音書 14 章 1-9 節 「キリストのために良いことを」

小池 宏明 牧師

主イエス様の体に高価な香油を塗る、あるいは注ぐ女の人の姿が、4つの福音書いずれにも出てくる。誰であっても、主イエス様に高価なささげものをするには、信仰が無ければ、愛が無ければできないことだ。しかし、そのことが人々から理解されず、この香油があれば貧しい人たちに施しができたのにと批判を受ける。主イエス様は、批判している者たちに次のように語った。7-9 節「貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒にいます。あなたがたは望むとき、いつでも彼らに良いことをしてあげられます。しかし、わたしは、いつもあなたがたと一緒にいるわけではありません。彼女は、自分にできることをしたのです。埋葬に備えて、わたしのからだに、前もって香油を塗ってくれました。まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。」

*主は献身的な愛の奉仕を認めておられる

主イエス様は、ある女の人の犠牲的な愛と信仰を正しく評価してくださった。彼女は主イエス様が語られた言葉をよく聞いており、主が苦難の道を歩まれることを分かっていた。彼女は主イエス様のために、ナルド油を使い果たすことを惜しまなかった。もうすぐ死ななければならぬ主イエス様に対して、愛の犠牲を惜しんでしまうならば、永久に悔いを残さなければならなかつたろう。

*主の時を逃すことなく

主は、貧しい人々に対する愛の行為も良いこととされている。そして、それは「あなたがたが望むならばいつでもできる」と語られた。ところが、主イエス様の埋葬の備えは、十字架を目前にした「今しか」できない。今することと、後で出来ることを区別するのは必要なことだ。私たちは、時を逃すことなく、その時々に必要な自分にできる最高のものを、主にお捧げしたい。

*献身的愛こそ永遠性がある良いこと

主イエス様は、女の人の行為が永遠の記念となることを予告された。確かに彼女の行為は非常識な浪費のように見えたかもしれないが、やがて、彼女の純粋で美しい心が理解され、福音書に記録され、世界中に伝えられるようになった。「最も優れているのは愛です。」(コリント第一 13 章 13 節) と語られているとおりである。

私たちは、主イエス様のために良いことをしたい。すなわち、主への献身的愛と感謝をお捧げしたい。それは、私にとって、具体的に、何をささげることだろうか？ 祈り求めよう。